

# 平成十八年歌会始御製御歌及び詠進歌

笑み

御製

トロンハイムの運河を行けば家々の窓より人ら笑みて手を振る

皇后陛下御歌

笑み交はしやがて涙のわきいづる復興なりし街を行きつつ

皇太子殿下

いとけなき吾子の笑まひにいやされつ子らの安けき世をねがふなり

皇太子妃殿下

輪の中のひとり笑へばまたひとり幼なの笑ひひろがりてゆく

文仁親王殿下

人々が笑みを湛へて見送りしこふのとり今空に羽ばたく

文仁親王妃紀子殿下

飛びたちて大空にまふこふのとり仰ぎてをれば笑み栄えくる

正仁親王殿下

わが手より放すてふてふを見あげつつエルサルバドルの子と笑み交はす

正仁親王妃華子殿下

飛行場にむかふる人の面おもの笑み長旅のあとの心やすらぐ

崇仁親王妃百合子殿下

みどり児は何を夢みる乳たりてねむりながらもほほゑみにけり

寛仁親王妃信子殿下

笑み忘れすごせし日々の苦しさをたすけたまへる君あたたかき

憲仁親王妃久子殿下

笑みをもて見守り給ひし子ら三人みたりのしぐさ日に日に大人めきたり

御製

トロンハイムの運河を行けば家々の窓より人ら笑みて手を振る

平成十七年はノルウェーとわが国との国交樹立百周年に当たっていたところ、両陛下はその五月に同国を国賓としてご訪問になった。

この御製は、ノルウェー国王の戴冠式も行われた同国北部の古都トロンハイムを訪れ、メッセIIマールリット皇太子妃殿下と共に船で運河を航行された時のことを詠まれたものです。

皇后陛下御歌

笑み交はしやがて涙のわきいづる復興なりし街を行きつつ

平成十七年一月、両陛下は阪神淡路大震災十周年を迎えた神戸市を訪れ、市街地の復興ぶりを視察された。

町で出会う人々と笑みを交わし、復興の喜びを分かち合われながらも、それぞれの人が越えてきた苦難を思い涙ぐまれた記憶を詠まれたものです。

皇太子殿下

いとけなき吾子の笑まひにいやされつ子らの安けき世をねがふなり

皇太子殿下には、すこやかに満四歳になられた敬宮愛子内親王殿下のご成長をやさしく見守っておられます。

このお歌は、幼い愛子内親王殿下のほほえみに心いやされながら、愛子内親王殿下をはじめ、世界の子供達がやすらかに過ごせる世が実現できるように、との願いをこめて詠まれたものです。

### 皇太子妃殿下

輪の中のひとり笑へばまたひとり幼なの笑ひひろがりてゆく

皇太子同妃両殿下には、内親王殿下が同年代のお子様たちとお過ご  
しなれることを大切にお思いでいらつしやいます。

そのようなお集り、お教室のお後、お子様たちが自然に輪になり興  
じるうちに、一人が笑い、また一人が笑い、次々と笑いが大きく広が  
っていきました。

そのお子様たちを優しく見守るお母様方にも笑いが伝わり、その場  
が幸せに満ちていく様子を、妃殿下がほほえましく思われて、詠まれ  
たものです。

### 文仁親王殿下

人々が笑みを湛へて見送りしこふのとり今空に羽ばたく

秋篠宮殿下は秋篠宮妃殿下とご一緒に、昨年（平成十七年）九月二  
十四日に、兵庫県豊岡市にて、コウノトリの野生復帰の第一歩として  
行われたコウノトリの放鳥式に出席された。式典会場には、約三五〇  
〇名の人々が来ており、その人たちが皆笑顔で飛んでいくコウノトリ  
を見送っていた。その光景を詠まれたものです。

### 文仁親王妃紀子殿下

飛びたちて大空にまふこふのとり仰ぎてをれば笑み栄えくる

秋篠宮妃殿下は、秋篠宮殿下とご一緒に、昨年（平成十七年）九月  
二十四日に、兵庫県豊岡市にて、コウノトリの野生復帰の第一歩とし  
て行われたコウノトリの放鳥式に出席された。式典会場には、コウノ  
トリを大切に育て、見守ってきた関係者や豊岡の人々が多く集い、飛  
び立って大空に舞うコウノトリの姿を皆一緒に見上げていると、自然  
に笑みが込み上げてくる様子を詠まれたものです。

正仁親王殿下

わが手より放すてふてふを見あげつつエルサルバドルの子と笑み交はす

昨年（平成十七年）十月「ニカラグア国及びエルサルバドル国」を  
公式訪問の際、エルサルバドル国「ティン・マリン児童博物館」を訪  
ねられた時のことを詠まれたものです。

正仁親王妃華子殿下

飛行場にむかふる人の面おもの笑み長旅のあとの心やすらぐ

昨年（平成十七年）十月「ニカラグア国及びエルサルバドル国」を  
公式訪問された時の思い出を詠まれたものです。

崇仁親王妃百合子殿下

みどり児は何を夢みる乳たりてねむりながらもほほゑみにけり

昨年（平成十七年）二月に生まれたひ孫をご覧になられた時のこと  
を詠まれたものです。

※ひ孫は近衛忠大様のご長男のこと

寛仁親王妃信子殿下

笑み忘れすごせし日々の苦しさをたすけたまへる君あたたかき

ご静養中様々な折にふれ、宮様のご配慮に感謝のお気持ちを寄せら  
れ詠まれたものです。

※宮様は寛仁親王殿下のこと

憲仁親王妃久子殿下

笑みをもて見守り給ひし子ら三人みたりのしぐさ日に日に大人めきたり

召人 森岡貞香

やはらかき春の日差しに笑まふなる小さき草の花見むと思へや

選者 安永露子

春の雪ましろに降れば火の山の阿蘇の煙も笑むがにゆらぐ

選者 岡野弘彦

天の戸をあなおもしろと分け出でし神の笑まひに世はまかがやく

選者 岡井 隆

辿り来し道のはたての雪明かりおのづからわが笑みて立つべし

選者 篠 弘

春の日にわらわらゑまふ伎楽面呵呵大笑を聞くごとくゐる

選者 永田和宏

笑ふ兎笑ふ蛙やほうほうと鳥獸戯面に秋風の立つ

選 歌 (詠進者生年月日順)

徳島県 藤川浅太郎

鏡見て笑ふ稽古をするといふ仕事であればきびしからむか

福井県 武曾豊美

宇豆賣舞ひとよめき上る笑ひ声天の磐戸は開かれにけり

山口県 中西輝磨

面白きところを読みてゐるならん本を読む子の目が笑みてゐる

鹿児島県 福満 薫

おほどかに笑みこぼしゐる田ノ神を水にうつして田植ゑ始まる

東京都 醍醐 和

子どもらのましてや老いの笑まふ顔ひとつもあらず古きアルバム

高知県 安光セツ子

われ笑めば母も笑まひぬおほかたの過ぎ来し日々は忘じ給ふに

茨城県 出頭寛一

赤とんぼ群れ飛ぶ秋のまん中へ母の笑顔を押す車椅子

東京都 松本秀三郎

定年の日に水族館を訪ねきて鱒えびの微笑み見上げてをりぬ

岡山県 岩藤由美子

ぎこちなく笑ふことから生まれり仲直りせし朝の食卓

東京都 桧山多代

電話鳴り出るたび笑みがこぼれだすまだ言ひ慣れないあなたの苗字

佳 作 (詠進者生年月日順)

大阪府 栗山三郎

耳遠きわれは談笑の中にゐておくれ笑ふ声なき笑ひを

奈良県 谷口光明

ひたすらに子等の笑顔に会あひたくて保育所へ行く車椅子われは

東京都 奈良孝男

永かりし冬にてありしがやうやくに結露絶えしと妻はほほ笑む

静岡県 桑原安之助

薔薇園にひかりは溢れうら若き車椅子のひと微笑みつつ来

ブラジル国  
サンパウロ州 青柳ます

幸せに生まれしものよ乳たらひ眠りながらもみどり児は笑む

新潟県 宮田義平  
復興をあらたに誓ふ村まつり神に供ふる笑みし毬栗いがぐり

北海道 中井君次  
振り分けの荷を負ふ我を笑ひつつ弱視の妻が手を引きくるる

兵庫県 加島清子  
笑み忘れぬナースでありしと思ひつつ今日をかぎりの白衣を脱ぎぬ

秋田県 小林絢子  
「次の世もペアを組まうか」と病む夫が笑みて言ひしを今日の幸とす

兵庫県 高井忠明  
ねだりたる昆虫図鑑抱きしめて幼は笑まふ書店主われに

宮城県 山崎正博  
濃きうすき多まひの影のあたたかく地蔵並べり木もれ日の中

愛知県 大川内早恵子  
噴水のある公園を駆けぬけて君の笑顔が待つ場所に行く

三重県 西井常興  
長生きは笑へば叶ふと講師言ひ三百名はともに笑ひき

大阪府 川阪友未  
お母さんすぐおこるけどすぐ笑ふでもまたおこるそのくり返し